

二〇二二年

国語 A入試 試験問題

監督の先生の「始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (1) 「始め」という指示で、すぐに受験番号を解答用紙と問題用紙の決められたところに書きなさい。
名前を書くところはありません。
- (2) 問題は(1)ページから(4)ページまであります。
- (3) 試験時間は四十五分間です。
- (4) 答えはすべて解答用紙の決められたところにていねいに書きなさい。
- (5) 印刷の文字がはっきりしないときは、手をあげて聞いてもよろしい。
- (6) 「やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして、机の上に置きなさい。

受験番号

番

名古屋商科大学
名古屋国際中学校

国
A④

※ 2022010901

国語

一 次の二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

文章一

むかしむかし、あるところに、なに不自由なく、くらしている紳士がいました。ところが、その二どめにもらったおくさんというのは、それはそれは、ふたりとない、こうまんでわがままな、いばりやでした。まえのご主人とのなかに、ふたりもことがあって、つれ子をしておよめに来たのですが、そのむすめたちというのが、やはり、なにかから、なにまでおかあさんにそっくりな、いけないわがままむすめでした。

さて、この紳士には、まえのおくさんから生まれた、もうひとりの若いむすめがありました。それは気だてなら、心がけなら、とてもいいひとだった。亡くなった母親そっくりで、このうえないすなおな、やさしい子でした。

結婚の儀式がすむとまもなく、こんどのおかあさんは、さっそくいじわるの本性をさらけ出しました。このおかあさんにとっては、腹ちがいのむすめが、心がけがよくて、そのため、よけいじぶんの生んだこともたちのあらの見えるのが、なによりもがまんでできないことでした。そこで、まむすめを台所にさげて、女中のするしごとを追いつかいました。お皿を洗ったり、おせんごしらえをしたり、おくさまのおへやのそうじから、おじょうさまたちのお居間のそうじまで、させられました。そうして、じぶんは、うちのとっぺんの、屋根うらの、くもの巣だらけなすみで、わらのねどこに、犬のようにまるくなって眠らなければなりませんでした。

…(中略)…

かわいそうなむすめは、なにかもじっとこらえていました。父親は、

すっかり母親にまるめられていて、いっしょになって、ごごとをいうばかりでしたから、むすめはなにも話しませんでした。それで、いいつかったしごとをすませると、いつも、かまどの前にかがんで、消炭や灰の中にうづくまっていましたから、まむすめの姉と妹は、からかい半分、サンドリヨンというあだ名をつけました。これは灰のかたまりとか、消炭とかいうことで、つまり、それは、「灰だらけ娘」とでもいうことになりました。

(シャルル・ペロー著 楠山正雄訳『灰だらけ娘 またの名「ガラスの上ぐつ』)

文章2

むかしむかしのことだ。ある貴族の男には、娘がたくさんいた。長女や次女にはお婿さんをむかえて、それぞれ西の屋敷や東の屋敷に住まわせて派手な暮らしをさせ、「三女、四女には成人式をしてあげよう」と、それぞれを大事に育てていた。男は昔、皇族出身の女と結婚したが、彼女はもう亡くなっていて。彼女との間にも、一人の娘がいた。

男の今の奥さんである北の方は、その娘のことをどう思ったのか、召使いと同じあつかいすらせず、屋敷からはなれた、床が落ち窪んだ、せまい部屋に住まわせている。娘のことを姫君とも呼ばせず、「あの方」などは決して言わせない。呼び名をつけようにも、男は北の方のことをおもんぱかっている。北の方が「落窪の君と言え」とおっしゃるので、召使いたちもそう呼んでいるのだ。 (中略)

(参考『落窪物語 巻之一』)

(一) — 線部①「灰」について、本文中の読みと同じ読み方をする漢字を一つ、漢字一字で答えなさい。

(二) — 線部②「おもんばかって」の本文中での意味として、正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 叱って
- イ 良く思っ
- ウ 悪く思っ
- エ 気づかっ

(三) 次の表は文章1と文章2のストーリーを整理したものである。

() にあてはまる言葉をそれぞれ六字以内で考えて答えなさい。

文章1	文章2
「若いむすめ」	皇族の血をひく娘
実の母を亡くし、 継母に (a) ている	
(b) に住んでいる	
あだ名で呼ばれている	
(c)	落窪の君

二 次の文章は一九四六年に発表されたものである。これを読んで、あと
の問いに答えなさい。

私たち婦人が「女らしい」とか「女らしくない」とかいう言葉で居心地
わるい思いをしなくなるのはいつのことだろう。

日本の社会も、^A袂で顔をかくして笑うのを女らしさといったり、^B大事な

返事をしなければならぬときに口もきけなくて畳をむしるのが娘らしい

という考えかたからは、ぬけて来た。 ^① a、何かにつけて思い出した

ように「女らしさ」が登場して来る。そして、それはいつも、何かのかた

ちで婦人の生活が社会的に一步前進する事情に面したときである。例え

ば、婦人に参政権が与えられたとき、あちこちに改めて「女らしさ」がと

りあげられた。立候補した婦人たちは保守的な男女の一票をとり逃すまい

としてどんなに「女はどこまでも女らしく」と強調しただろう。はた目に

気の毒なほど強調して「女こそ女の苦しみがわかるのだから」と演説した。

^③ b、当選して、開院式の折、またその他の場合とかく「女らしく」

衣服のことまで話題にされた。女らしさを標語にした婦人代議士たちにし

ても、それはさぞうるさく迷惑なことであつたらう。女は「女らしく」婦

人代議士クラブというのをこしらえた。女らしく、お茶を立てて飲んだり

したが、政党間の利害は女らしさにも現実に作用して、こわれてしまった。

そのとき新聞の批評は、どうであつたらうか。

^④ 「やっぱり女は」という表現が加えられた。：(中略)：

若い娘が女らしくなくなつた、或は女らしくなくなりはしないか、とい
うことはどこでもいわれていることである。相当の見識をもっている人
も、これらの問題に何となく女らしさの気分をからめて取り上げる傾向が
あると思う。自分の一票を誰に与えようと考えたとき、たしかに真面目な
婦人は、演説をききに出かけずにはいられない。うちで、そういう話も出
る。意見もいふようになる。それが、女らしくないといふどんな根拠があ

るのだろう。熱中してほてらしている頬は、まがうかたない女の軟かい頬であり、声高に議論するその声は、どうしたってテノールやバスではあり得ない。女のアルトであり、若々しいソプラノであるだろう。握る拳さえ、女は女のこぶしを握るのである。本質の女らしくなさ、がどこにあるだろう。そうして、活発に論じ、行動する女の女らしさをいじらしく、雄々しく見ることの出来ない人々が、また、逆に「女らしさ」を武器として使う相手にいくるめられそうになり口惜しさに涙でもこぼせば、それ、女らしい。何だヒステリーをおこして、という。：（中略）：

今日、あらゆる面で、「女が女らしくない」といわれる動きかたをして、いるとすれば、その本来の目的は何であろうか。一つ一つ、どれとして、社会人として婦人として、人間性と女性なる性の完成のためでないものはない。：（中略）：すべての主婦、学生のために勤労婦人こそトップに立ってそれを求めている。女らしさのゆえにこそ、婦人たる性を愛し尊ぶからこそ、今日婦人は立っている。そのことを、ひとも我も、しんから自覚し、たまたか^⑧いにおいてさえも婦人の天真な美しさとつよさを発揮してゆきたいと思う。

（宮本百合子『女らしさ』とは）

(一) a・bに入る接続詞について、正しいものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア そして
- イ だから
- ウ しかし
- エ および

(二) 線部A・Bの動作に共通する感情は何か、短く答えなさい。

(三) 線部①「ぬけて来た」とあるが、考えかたがどうなったのか、別の言葉で言いかえなさい。

(四) 線部②「参政権」とは、どのようなことが認められる権利か、かんとんに説明しなさい。

(五) 線部③「衣服のことまで話題にされた」とあるが、筆者は、それをされた女性がどのように感じたと考えているか。本文中より六字で抜き出しなさい。

(六) 線部④「やっぱり女は」とあるが、これに続く言葉を考えて答えなさい。

(七) 線部⑤「気分」の本文中での意味を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 気持ち
- イ 雰囲気
- ウ 気質
- エ 心地

(八) 線部⑥『女らしさ』を武器として使う」とはどういうことか。正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 女性だからという理由で政治に参加しないこと。
- イ 女性だからという理由で批判すること。
- ウ 女性だからという理由で政治に参加すること。
- エ 女性だからという理由でかばうこと。

(九) — 線部⑦「本来の目的は何であろうか」とあるが、筆者はどのような目的を挙げているか。句読点を含む二十七字で抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。

(十) — 線部⑧「たたかい」について、次の会話文は生徒たちが、この文章について話し合っている場面である。(a) (b) (c) にあてはまる言葉を、それぞれ考えて書きなさい。

生徒ア「このたたかいて何だろう。暴力ではないことは確かなんだけど…。」

生徒イ「ちょっと整理しよう。つまりこの人はこの文章で、『女性が (a) 進出すると (b) らしくないと言われるが、それは間違っている』ということを書いたんだよね。」

生徒ウ「じゃあ、ここでのたたかいは、『そういうことを言う人 (c) する。』って意味になるのかな。」

生徒ア「そういうことか!」

三 語句について、次の問いに答えなさい。

(一) 次の四字熟語の□には漢数字が入る。□に入るものを答えなさい。

① □日千秋

② □時中

③ □転八起

(二) 次の — 線部の敬語について、間違っているものは正しい敬語に書き直し、正しいものは敬語の種類を答えなさい。なお、漢字がわからない場合はひらがなで答えてもよい。

① 「花だんの水やりは、私がなさいます。」(生徒が先生に向かって)

② 「このお菓子を、とし君のお母さんに差し上げてね。」(親が子どもに向かって)

③ 「そのように申し伝えておきます。」(店員がお客さんに向かって)

(4)

(これで問題は終わりです。)